市内の戦跡保存の取り組みに向けて
=戦争を後の世代に伝え、二度とあやまちを繰り返さないために=

2002年11月24日(日)
日本共産党・板倉真也

アジア太平洋戦争が終わって57年が経過し、戦争の直接体験者が徐々に姿を消すなか、証言を通して戦争の悲惨さや非人間性を学ぶことが難しくなってきている。年々減少する体験者の世代に代わって、戦後世代が平和の大切さを伝える努力をしていくことが求められており、その際、戦争の深い傷跡を残す遺跡や遺物をできるだけ現場で見てもらい、証言を元にそこで何があったのかを、後世に伝えていくことが私たちに課せられている。

戦跡とは何か

「戦争遺跡」あるいは「戦争史跡」と呼ばれ、戦争のなかでの事件や被害に関わる場所・施設、あるいは軍事施設・軍需工場が該当し、遺構・跡地も含まれる。世界遺産に登録された広島の「原爆ドーム」は、その代表格。

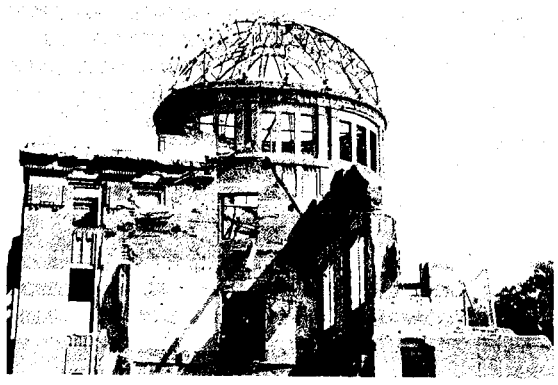
国の動き

〔文化庁が「軍事に関する遺跡50箇所を今後、詳細に調査」と発表(今年8月)〕

文化庁の「近代遺跡調査等検討会」は、将来の国指定史跡を念頭に、戦争遺跡50件を詳細調査対象に選定。50件すべてが軍需工場や軍事関係施設。このなかには、太平洋戦争末期、朝鮮人の強制労働で造成された松代大本営予定地地下壕(長野市)や沖縄戦の戦跡・南風原陸軍病院壕(沖縄県南風原町)などとともに、2·26事件関係施設(新宿区)や浅川地下工場跡(八王子市)、東京陸軍航空学校関係遺跡(武蔵村山市)など、東京都内施設8箇所が含まれている。

〔転機 —— 原爆ドームの世界遺産登録〕

1970年代から沖縄や長野で戦争遺跡の保存運動が取り組まれるなかでも腰を上げてこなかった政府が今回、戦争遺跡の詳細調査に踏み切ったキッカケは「原爆ドームの世界遺産登録」。国連から日本政府に登録の事前打診が行なわれるなか、国内法の整備を行なう必要性が生まれ、1995年3月に文化財保護法を改正した。「世界遺産登録」は、翌年(1996年)の12月。



1995年3月の文化財保護法の改正により、それまでは日本の文化財の指定範囲が「江戸時代まで」だったものが、「近代戦争まで」となり、指定基準のなかに、太平洋戦争に関する遺跡が含まれるようになった(96年10月に「指定基準」改定)。

〔沖縄だけでも 1,000箇所を超える戦争遺跡〕

現在、沖縄県内で埋蔵文化財センターが独自に戦争遺跡の詳細調査を行なっており、南部と中部だけでも540を超えている。那覇・北部・離島を含めると、沖縄だけでも1,000箇所を超えるといわれている。

小金井市内の戦争遺跡

〔陸軍技術研究所跡 ——— 「プール跡」「管理棟」、その他〕

陸軍技術研究所／

1940年(昭和15年)と1942年(昭和17年)の2回に分けて、国は小金井・小平地域の 175ha(約53万坪)の土地を強制買収。現在の市営競技場、第2小学校、第1中学校、本町住宅、公務員住宅、中央大学付属高校、本町小学校、東京学芸大学、通信総合研究所、サレジオ学園などの広大な一帯。小金井にかかる面積は 83ha(約25万坪)で、現在の小金井市の14分の1にもおよぶ範囲。

陸軍技術研究所は第1から第10まで研究所が分かれ、小金井・小平のこの一帯には、第1、第2、第3、第5、第7、第8の研究所があった。周囲をコンクリートの塀がめぐらされ、東西南北に5カ所の門があり、守衛所が設けられていた。

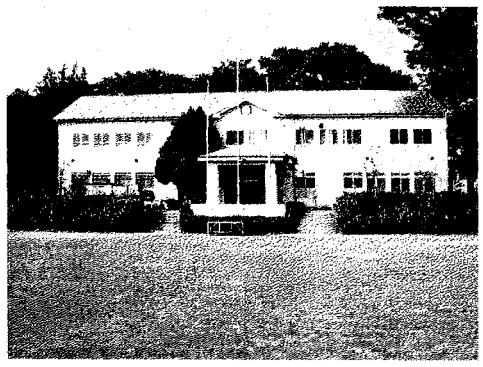
5カ所の門	東門：「競技場通り」の管理棟への入り口
	西門：「オリンピック」北側の「サレジオ通り」入り口
	南門：貫井北町2丁目1番地付近(戦後の一時期、学芸大の正門にもなった)
	北門：新小金井街道沿い「小金井市文書倉庫」北側の交差点付近と思われる
	表門：学芸大学の正門(門は当時のまま)

第1研究所／1中、2小、市営競技場、市営住宅およびその周辺。銃器、火砲、馬具、弾薬等に関係する部署。
第2研究所／本町小およびその周辺。測量器、照準機、眼鏡などに関係する部署。
第3研究所／学芸大東側部分、「プール跡」およびその周辺。渡河、鉄道、架橋、道路、爆破器材および一般工兵器材などに関わる部署。
第5研究所／通信総合研究所。電波、通信器材関係の部署。
第7研究所／サレジオ学園付近。物理的兵器関係の部署。
第8研究所／学芸大学の中心付近。兵器の基礎研究に関する部署。

▷「プール跡」

新小金井街道沿いにあり、バス停「プール前」が今もある。現存しているのは、当時の半分の大きさ。また、当時は、「プール」南側に、地下４階程度の深さの水槽があったと言われる。水陸両用戦車の実験研究用に造成された。戦後、1964年まで、学芸大学が学生のプールとして使用。現在、学芸大が管理している。

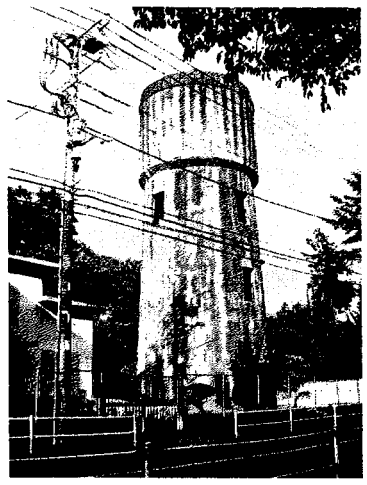
▷「管理棟」



市営競技場（「平和盆踊り」会場）の北側の建物。木造２階建て。1942年（昭和17年）に陸軍第１技術研究所の本部棟・事務棟として建設。1946年（昭和21年）４月に小金井町が国から借りて、国民学校中部分教所を開校。1947年（昭和22年）４月に小金井第２小学校となる。同年、近隣の技術研究所跡地に第１中学校を開設。1963年（昭和38年）に北側に第２小学校の校舎ができたのにともない、南側の校庭を市営競技場として整備し、市民に開放。現在、建物は、市営競技場の管理棟として使用。床面積 約330㎡

▷「給水塔」

サレジオ学園（小平市）西南角の「サレジオ通り」沿いに、異様な様相でそびえ立つコンクリートの塔。第５技術研究所敷地に建設。受水槽（126トン）を塔の上につくり、その圧力で送水した。現在は、大蔵省財務局が管理している。

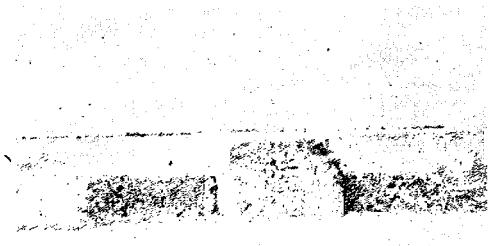


給水塔は、もう１塔あった。新小金井街道沿いの学芸大学東門北側の、現「小金井市役所貫井北町分室」敷地内（190トン余）。

1955年（昭和30年）11月１日、小金井町が町営水道を創業。両方の給水塔を含む旧 陸軍技術研究所の水源地と設備を国から無償で借り受け、1974年（昭和49年）５月末まで運営。

給水塔自体がいつ頃まで水道事業で活用されていたかは不明。学芸大学東門北側の給水塔が取り壊されたのは、1969年～70年。水道事業を東京都に統合したため、必要なくなった。なお、取り壊された跡は現在、北町分室の清掃車両等のガレージ（屋根付駐車施設）になっている。また、旧 陸軍技術研究所の上記２箇所の水源地は現在も、水道事業で使用されている。

▷「陸軍」印の境界石



現在、板倉は２箇所で確認。①学芸大学正門から西に170m程行ったところの塀沿い。②小金井保育園から北へ稲穂神社に向かう通りの道路脇の路肩。その他にも、学芸大学西側のコンクリート壁（この壁も当時のまま）沿いに、無印の境界石が、いくつかある。

▷余談①

東京学芸大学は1946年（昭和21年）５月に、池袋から現在地へ移転。当時は「東京第２師範学校」と称した。学芸大学としての開学は1949年（昭和24年）５月31日。第１回入学式は同年７月18日。

1946年当時の学内について、以下の記述あり。

「６万坪に近い一面の畑地に雑木林の点綴する一大平原のあちこちに、点在する50余棟の建物をまき散らした光景」「少しでも手をゆるめると雑草と盗賊に進入せられ、またこの広大な土地と、空き家同然の建物をねらってくる団体も数多くありました。机もなければ腰掛けもなく、黒板さえないガランとした吹きさらしのこの部屋で、座って授業を受けている生徒の姿は『みじめ』と言うよりむしろ悲壮そのものでした」。

学芸大（1960年代）

（東京学芸大学50年史「通史編」/1999年発行）

※移転当時は、旧 陸軍技術研究所の建物を使用していた。

▷余談②

陸軍技術研究所の造成工事・建築工事等は、約1,000人の労働者で行なわれ、うち、700人が朝鮮人といわれる。朝鮮の労働者に工賃が支払われていたかどうかは不明。朝鮮と中国から日本に、約70万人が強制連行されたといわれる（家永三郎編「日本の歴史」）。

「1939年～45年 朝鮮全土から72万4,817人（軍人・従軍慰安婦除く）」の記事もある。
（「原水協通信」2002年11月号）

戦争遺跡保存の運動を

〔姿を消す戦争遺跡〕

「給水塔」は２つのうち１つが姿を消し、「プール跡」は、すでに半分が埋没。学芸大学構内唯一の旧 陸軍技術研究所の建物（木造平屋）も、今年７月23日未明の不審火で全焼。現役で活用されている「管理棟」は、2005年（平成17年）に取り壊しの予定。

〔保存のための取り組みを〕

①現存の戦争史跡および跡地に、説明看板等の設置

「戦争史跡について現況調査を進めるとともに、保存が可能かどうか検討をしていく必要がある。歴史的事実を記した説明板等を各所に建立することは可能」（2002年９月議会での市の答弁）

②当時を知る人への聞き取り調査

「戦争体験者や軍関係者が次第に高齢化しまして少なくなってきておりますので、早急に聞き取り調査に着手できるよう検討してまいりたい」（上記同）

③資料等の収集・作成と公開

「（市制施行50年史で）戦前・戦中も入れた戦後史についても充実させて、新たに調査を行なって、通史編で記述する予定」（上記同）

注(1) 小金井市史編さん委員会では、昭和59年から昭和63年に、技術研究所等の関係者の聞き取り調査を実施。

注(2)昭和55年２月から昭和58年３月31日まで、技術研究所関係者含む戦争関連の聞き取り調査を実施。

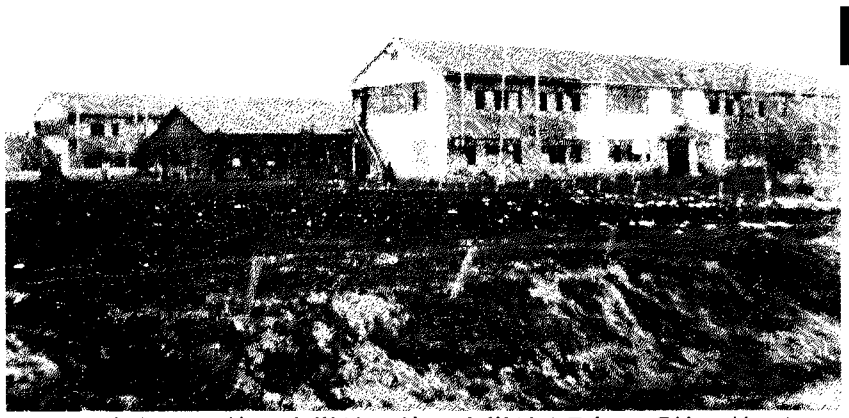
――――「小金井市誌編纂資料 第13編」（昭和59年３月）として発行

④市民の運動団体の結成

「戦争史跡に指定し保存するためには、学術的評価と市民の理解はもとより、土地所有者の同意が必要」（上記同）

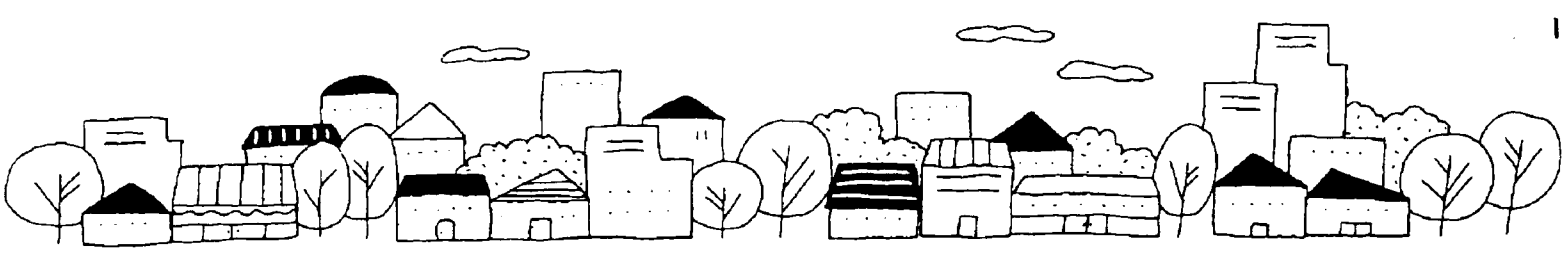
※ 1997年に「戦争遺跡保存全国ネットワーク」が発足

以上。



1951年撮影の第一中学校と第二小学校（現在の「管理棟」）

市内史跡めぐりツアーのご案内（雨天中止）

11月26日（火）午後２時～４時（自転車で）

〔順路〕
①旧 陸軍技術研究所の表門（学芸大学の正門）
②学芸大学内の「農家屋敷跡の石碑」（予定）
③学芸大学正門西側の「陸軍」印の境界石
④旧 陸軍技術研究所の西門付近（オリンピック北側）
⑤サレジオ学園西南角の「給水塔」
⑥旧 陸軍技術研究所の北門付近（場所は特定できず）
⑦新小金井街道東側の「プール跡」
⑧北町分室内の「給水塔」跡
⑨旧 陸軍技術研究所の南門（貫井北町２丁目１番地）
⑩小金井保育園から稲穂神社に向かう通りの「陸軍」印の境界石
⑪旧 陸軍技術研究所の東門（競技場通りの「管理棟」への入り口）
⑫市営競技場の「管理棟」